

2050年カーボンニュートラルに向けた 洋上風力発電人材育成の取り組みについて

2/28 参与会議

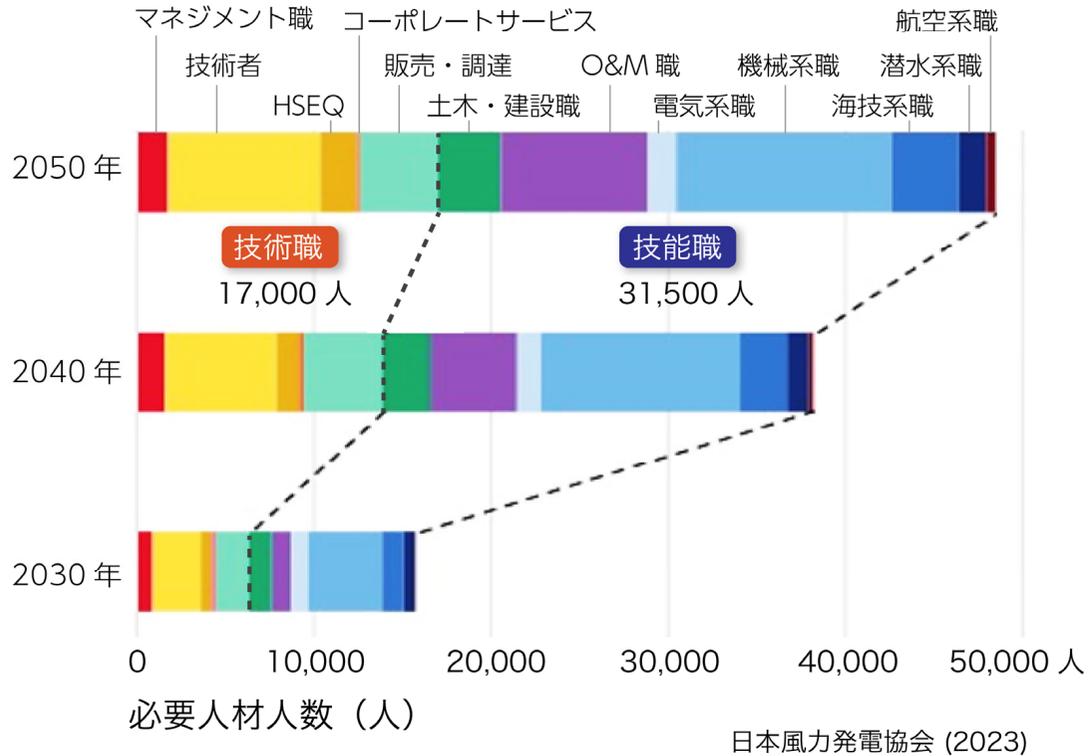
日本財団 海野光行



洋上風力発電の技術者、技能者の人材不足

- 洋上風力発電の人材需要は**2030年に15,700人、2050年に48,500人**(現在は約5,000人)
- 洋上作業の専門性を有する**人材の確保、育成が急務**

日本の洋上風力人材需要 (推計)



技術職(洋上風力技術者)

- プロジェクトの**企画や風車の設計等の全般的な管理**



技能職 (洋上風力技能者)

- 洋上風力発電の**建設、保守作業**(=GWO資格を取得)



日本財団洋上風力人材育成センター(24年11月完成)

- 洋上風力発電の現場を有し、古くから漁業・造船業など海とともに発展してきた長崎県に拠点を設置
- これまでの知見を活用し、長崎県が「洋上風力発電の人材育成のモデル拠点」となることを目指す



技能訓練棟

25年度末完成予定



洋上訓練施設(高島近海)

26年度末完成予定



洋上風力人材育成センター
(安全訓練棟)



6:15



- 日本財団は設立以来、150か国1,600名以上の国際的な海の専門人材育成をはじめ、海に関する様々な分野の人材育成に取り組んできた。洋上風力発電分野の人材育成もその一環
- 2050年のカーボンニュートラル社会実現に向けて、これからの5年間は地球温暖化の進行を大きく左右する重要な期間。産官学公で連携し、前倒しで進めていくことが必須
- 洋上風力発電分野をはじめとした海洋に係る重要施策の日本の取り組みは、国だけでなく民間企業の取り組みも網羅した計画づくり・実行を期待する



